



① 一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院



診療科目：脳神経外科、消化器外科、外科、整形外科、心臓血管外科、形成外科、呼吸器内科、泌尿器科、腎臓科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、皮膚科、泌尿器科、小児科、産婦人科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科、歯科、口腔顎顔面外科、放射線科、腫瘍学、放射線治療科、放射線診断科、内臓診断科、矯正歯科

〒963-8563 福島県郡山市下山町丁目115  
TEL.024-954-5322 FAX.024-934-3166 <http://www.minamitohoku.or.jp/>

② 社会医療法人 持国会 総合南東北病院



診療科目：脳神経外科、神経内科、内科、ペインクリニック、循環器内科、整形外科、内科、老年内科、呼吸器内科、泌尿器科、消化器内科、外科、形成外科、リハビリテーション科、放射線科、救急科

〒989-2483 宮城県岩沼市東の杜丁2-5  
TEL.0223-23-3151 FAX.0223-23-3150 <http://www.minamitohoku.jp/>

③ 医療法人社団 三成会 新百合ヶ丘総合病院



診療科目：消化器内科、内臓器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、泌尿器内科、神経内科、心臓内科、精神科、腫瘍内科、ペインクリニック、外科、消化器外科、心臓血管外科、泌尿器外科、呼吸器外科、皮膚科、美容外科、形成外科、整形外科、産婦人科、小児科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、放射線科（放射線診断正人）、眼科、放射線診断科、放射線治療科、救急科

〒215-0026 神奈川県川崎市麻生区吉沢町255  
TEL.044-322-9991 FAX.044-322-8658 <http://www.shinyu-hospital.com/>

④ 医療法人財団 健賢会 総合東京病院



診療科目：脳神経外科、神経内科、循環器内科、血管外科、整形外科、形成外科、美容外科、外科、内科、消化器内科、神経内科、呼吸器内科、泌尿器科、皮膚科、耳鼻咽喉科、産婦人科、小児科、精神科、小児科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科（伊藤仁志）、産科、薬科、口腔顎顔面外科

〒185-0022 東京都中央区虎ノ門3-15-2  
TEL.03-3387-5421 FAX.03-3387-5659 <http://www.tokyo-hospital.com/>

⑤ 医療法人財団 健賢会 東京クリニック



診療科目：ペインクリニック、内科、小児科、内科、外科、神経内科、脳神経外科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、内臓器内科、腫瘍内科、婦人科、乳腺外科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、泌尿器科、産婦人科、皮膚科、美容皮膚科、泌尿器科、放射線科

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル7階・地下1階  
TEL.03-3516-7151 FAX.03-3516-7152 <http://www.tokyo-clinic.com/>

最新の低侵襲手術を駆使

同グループでは、顕微鏡下手術以外でも高度な治療を積極的に導入し、治療の選択肢を増やしている。

●内視鏡手術

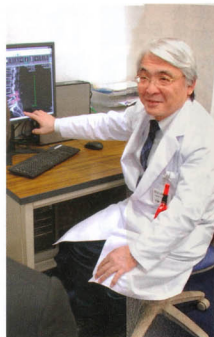
同院では、低侵襲治療の一端で内視鏡手術も手がけている。代表的な手技に、鉛筆程の太さの切開でヘルニアを摘出するPELDがある。「平面的画面を見ながら位置を探るため、解剖学的な知識を要する高度な手技ですが、手術前日に入院し、翌日には退院できる利点があります」と、この治療を数多く手がけてきた平野医師は説明する。

●BKP

高齢の女性に発症しやすいのが、骨粗鬆症による圧迫骨折。その最新治療が、骨折部位に刺した針を通じて濡れた骨をハルーンで広げ、骨セメントで固定するBKPだ。「この治療は、針を刺す程度の傷で済み、治療翌日から歩けるようになります」と、伊藤医師はその有用性に着目。保存的治療で症状が改善されない患者に対して実施してきた。



内視鏡手術やBKPは最新のハイブリッド手術室で行われる



総合南東北病院  
副院長兼脳神経外科/脊髄・脊髄外科部長

伊藤 康信

いとう やすひの ●医学博士。1981年、秋田大学医学部卒業。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医など



新百合ヶ丘総合病院  
脊髄神経末梢神経外科部長

尾原 裕康

おはら ゆうこう ●1992年、弘前大学卒業。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医など

クリューで固定するよう大きながかりな手術をすくなく、再手術における難易度が高まります。皆が長寿になり、再発例が増えたからこそ、先を見据えた低侵襲手術が求められるのです。同時に、低侵襲を心がけて、手術のリスクを抑えることで、早期から手術を積極的に選択することができると。結果として、漫然と保存治療を続けて悪化させてしまうような

ケースも防げるという。同グループは、ハイブリッド手術室や、術中に立体画像を得られる最新透視装置などの最新機器も駆使して、さらなる患者の増加が見込まれる脊髄神経疾患に今後



総合南東北病院  
脊髄外科部長兼脳神経外科医長

平野 仁崇

ひらの によしか ●日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医など

「すべては患者さんのために」という理念で、高度医療の実践に力を尽くす。取材/鈴木健太